

幸若舞演目概要（令和6年1月20日上演分）

【濱出】

別名を「蓬莱山」とも言い、祝言曲とされている。山を切り開き、沼地を埋め立て、一番高いところに源氏の氏神正八幡をまつり、鎌倉幕府の礎が出来たことを祝ったもの。

【日本記】

古事記・日本書紀から引用され、作詞されたもの。いざなぎ・いざなみの尊の国産みの神話を、仏教の世界観から大日如来を中心としたマンダラにたとえ、日本国の成り立ちを説明した物語。

【和泉ヶ城】

源義経を将に奉じて京へ上り、采配を揮うことを夢見ていた奥州藤原秀衡。年月を経て老齢となり死期の近いことを覚えるようになったころの藤原氏の本拠地平泉での一挿話を語る物語。

【高館】

源義経の最後の地となる衣川を見下ろす「高館」を舞台とした合戦絵巻。川を背にし高館を死守する義経一党の獅子奮迅の戦いぶりや義経の最後を物悲しく描く物語。

【夜討曾我】

曾我物語を題材とした曾我十郎祐成・五郎時致兄弟の仇討ち物語で、工藤祐経を父の仇と狙う曾我兄弟の富士の狩場での一幕。二人が夜討ちの指南を受けた秩父殿らから、おぎっしょう（もてなすための酒や食物）をいただき、それを喜んで意気盛んになった様子を語ったもの。